

3 町の主な文化活動団体の概要

木津の文化財と緑を守る会

現在、会員数は110名程度。木津町在住者が中心。発足当初から活動しているのはこのうち10名ほど。約30年前、木津町の歴史を示す貴重な史跡が都市開発のために宅地化されてしまった経験を通じ、文化財に対する行政の姿勢に不信感を持つと同時に、文化財保全のために住民に町の歴史・文化を伝える必要性を痛感した人々が、現在もこの団体の中心として木津町の文化財の保護と啓発活動を行っている。

木津町の文化財および自然の保全を目的とした団体。

2005年度は木津町から8万円の補助金を受けている。

テーマ別に7つの部会に分かれて活動している。

他の2団体と比較して、学術的な性格がより強いことが特徴。

山城町ふるさと案内人の会

現在、会員数は26名。山城町在住者が中心。

案内活動、町教育委員会などが行うイベント（散策会の共催、文化財講座への講師としての参加など）への協力などを行っている。これらの散策会には、京都府内をはじめ、愛知・長野・東京といったところからも参加者がやってくるという。特に山背古道で行われる散策会には、山背古道自体が多くメディアに取り上げられていることもあり、多数の参加者が訪れている。

山城町内の文化財の保存と活用を目的とした学習活動及び啓発活動を行うことが目的。

2000年に山城町から文化財愛護団体の登録を受け、現在町から年2万円の補助金を得ている。

ふるさと案内・かも

1998年から3年間にわたって南加茂台公民館で開講された「ふるさと案内人養成講座」の参加者を中心とし、2001年に正式発足した。

現在、会員数は35人。

加茂町の寺社仏閣（浄瑠璃寺・岩船寺・海住山寺）ほか文化財・史跡への案内活動であり、京都・奈良への観光客のなかで加茂町にも立ち寄る客を相手に案内することが多い。

5年以上にわたる案内活動で蓄積した経験を生かし、現在は精華町など他の地域で案内活動をしている団体に対してノウハウの提供を行っている。

2006年8月、NPO法人の認証を京都府から受けた。

60・70歳代の会員が多いことから、散策道の草刈り・清掃作業など身体を使った作業は同会単独ではなかなか大変である。

ネットワークの類型

		各参加団体相互のつながりの強さ	
		強い ← ← ← ← ← ← ← ← ← ← 弱い	
中心と 各参加団体と の つながりの強さ	強	クモの巣型 さまざまな団体が出会いやすく、他の団体の生きた情報がより速く共有できる。	センター型 中心的存在が各参加者を個別に支援するというケースが多い。
	い	中心的存在には、特に経験・調整役としての高い資質が求められ、その負担は大きい。	ひとつの団体または行政が「中心的存在」となるだけで設立が可能。中心的存在には、調整役としての資質よりも、支援のための専門的知識や経験が要求される。
	↑	名簿型 各参加団体の概要をまとめた名簿などが存在し、それを利用して各参加団体が任意に他の参加団体と交流したり、協力関係をもったりする。参加者の負担は少なく、自主性が尊重される。一方で、参加団体が自発的に利用しないことにはまったく機能しないうえ、ネットワーク自体としてできることには限りがある。予想外の事態に対応しにくい。	初期状態 ネットワークの関係が生じていない。
	↑		